

ブログを用いて議論をさせる授業の改善

田中浩朗

東京電機大学工学部

はじめに

2020年度前期から、授業でのディスカッションの形式を対面でのグループディスカッションから電子掲示板やブログを用いたオンラインでのディスカッションに変更した。オンラインでのディスカッションはZoomなどのビデオ会議サービスを使っても可能であるが、私はあえて電子掲示板（のちにブログ）を使った。大人数の講義科目で、互いに面識のない受講者が小グループに分かれて、ビデオ会議形式でディスカッションを行うことはかなり難しいことだと思われたからである。苦肉の策として始めたことだが、試行錯誤を続けるうちに、これは議論の仕方を教える方法として大きな可能性を秘めたものではないかと思うようになった。そこで、この2年間（4箇学期）の改善の試みを紹介する。

LMSの掲示板を用いる（2020年度前期）

初めは、十分な準備期間もなく授業を始めなければならなかったため、大学が提供しているLMS（日本データパシフィック製のWebClass）の掲示板機能を用いた。具体的には、教員から提示された問いかけに対する自分の意見をまず投稿させ、そのあと他の受講者の投稿を読んで、コメントを付けさせるという手順である。その際、クラスをそれぞれ20名程度のグループに分け、グループごとに掲示板を設けた。また、実名では意見が書きにくい学生がいるかもしれないと思い、投稿およびコメントは匿名とした。

独自のブログを開設する（2020年度後期）

既製の掲示板ではオンラインディスカッションをする上で制約が大きすぎると考え、夏休みを利用して授業用サイトを構築し、後期から独自のブログを用いてディスカッションを行わせた。完全な匿名制では自分が書いた投稿も見つけにくいという難点があったので、この学期はニックネーム制を採用した。20名程度のグループに分けてコメントを付け合わせるという前学期の方法は踏襲した。

論点ごとにスレッドを立てる（2021年度前期）

ブログでは、それぞれの投稿が一つの掲示板の

ような形になり、投稿の数だけ掲示板が立ち上がることになるため、同じような論点の議論がサイト上に分散して展開されるという問題が生じた。それを解決するため、議論の出発点となる論点は教員の方で投稿し、受講者はその投稿にコメントを付ける形で意見交換をする形にした。これにより、同じような論点に関するコメントをまとめて読むことができ、それぞれの論点について議論を深める上で役立つように思われる。

なお、この学期は対面授業再開の可能性があったため、対面でのディスカッションを行う可能性も考慮して投稿はローマ字書きの実名制を採用した（結果的には、対面でのディスカッションは実施しなかったが）。実名制にしても、特に意見が書きにくいということはないように思われる。

論点を提案させる（2021年度後期）

教員が提示した論点については、多くのコメントが付くものと少ししか付かないものに分かれるのが常であった。これは、受講者にとって意見を書きやすい論点とそうでない論点があることを意味していると思われる。そこで、できるだけ受講者が意見を書きやすい論点で議論をさせるため、自分が議論したい論点を受講者に提案させ、教員が提案する論点と合わせて候補とし、受講者の投票により議論のための論点を決定する方式にした。ただし、投票では似たような論点を選ばれることもあるため、その場合は教員の方で調整することとした。

学生の議論をさらに深めるために

ブログでの議論を成功させるためには、学生に議論の方法をしっかりと教えることが不可欠である。そのための基本的な部分はすでにできていると思われるが（田中 2021）、論証や反論の方法をパターン化して教えることにより、さらに深い議論をさせることが可能であろう。今後の課題としたい。

参考文献

田中浩朗（2021）大人数の講義科目で議論の仕方を教える授業の工夫. 第27回大学教育研究フォーラム発表論文集, p. 31